

ぎふ結のもり防災教育フェアに岐阜県代協と共に出展

～自然災害への備えの重要性や災害便乗商法への注意を喚起～

日本損害保険協会岐阜損保会(会長：柳野幹一郎 三井住友海上火災保険株式会社 岐阜支店長)では、11月8日(土)に岐阜県岐阜市で開催された令和7年度ぎふ結のもり防災教育フェアに出展し、自然災害への備えの重要性と災害便乗商法に対する注意喚起を行いました。

ぎふ結のもり防災教育フェアは、岐阜県の主催で、日ごろから身の回りの災害リスクを意識し、災害時に適切な避難行動がとれるよう、県民総ぐるみで自助、共助の底上げを図る「災害から命を守る岐阜県民運動」の一環として、岐阜県庁と岐阜県庁前のぎふ結のもりにて午前10時から午後3時30分頃まで開催されました。当日は天気も良く、防災学習エリアとして各団体が展示するブースのほか体験エリアとして、地震体験車による地震体験やはしご車やパトカーが展示されており多くの人が集まっていました。

当協会のブースでは、名古屋大学名誉教授の福和伸夫先生監修で、山沿いの家や、海沿いの家などが地震の際に遭遇する可能性のある事象を絵にして分かりやすく解説した「減災絵巻」を展示したほか、来場者に防災や地震保険に関するクイズに挑戦してもらいました。こども向けクイズではお父さんお母さんがヒントを出しながらお子さんが答えるなど、ご家族で楽しんで防災について学んでいただくことができました。一緒にクイズを楽しみながら、地震が起こった時にどうしたら良いかや事前の準備としての地震保険の重要性を説明しました。併せて、最近増加している災害に便乗した悪質な住宅修理業者の被害に遭わないように注意喚起も行いました。

当支部では、自然災害への備えの必要性和、悪質な災害便乗商法の被害者を減らすため、今後も積極的な情報提供を行ってまいります。



〈減災絵巻を見ながら防災を学習する親子〉



〈防災クイズに挑戦する親子〉